

## 学び直しこそ

「週末寸言」原稿 2010/11/20

友人と話をしていた。また物理学や数学などの自然科学的な話題が入り混じると、多くの場合「いやあ、実は私は文系でねえ、そういう話は弱いんだなあ、あっはっはっ」となる。また、別の知己と話してこれまたまたま古典文学の話などに至ってしまったと、多くの場合「いやあ、俺は理系だからなあ、そういう話には弱くってねえ、あっはっはっ」とくる。果たして、こういう受け答えを字句通り聞いておくべきか否か？

第一例の男または女は「私は文科系の学識が豊富だ」と言っているというよりも「私は数学や理科が苦手だ」と言っているだけなのではないか。同様に第二例の女または男は「自分は自然科学を得意にしている」と主張しているのではなく、「自分は社会科や国語・外国語などの勉強が嫌いだったなあ」と言っているだけなのではないか。筆者は、口にしそ出さないが、こうからかいたい衝動に常々駆られる。

日本人のノーベル化学賞受賞者を今年も二人輩出した。近年の少なからざる快挙の一方で、これらは一世代前の成果であって、現代の青少年の「理科離れ」から推算すると30年後に日本人の自然科学系ノーベル賞受賞者は絶滅するのではないかと、不安視されている。

しかし、不安視すべきは「30年後」だというのは如何にも無責任な放言としか言いようがない。不安は、30年後ではなく「今」なのである。日本人の成人の勉強嫌いは世界的に群を抜いている。OECD加盟30か国中、25歳以上の成人が大学で学んでいる比率は21%。しかるに日本の成人男女では、たったの2%と最下位だ。

「六日のアヤマ、十日の菊」よろず変化の急な現代、昔習った勉強の賞味期限など何ぼのものやら。私の専門のIT技術では、学卒知識の有効期限は4年と言われている。そういう時代に、昔取ったか取らなかつたか、「理系」・「文系」の杵柄のことなど忘れて、リカレント教育を受け直すべきだ。これが、30年後の日本人ノーベル賞受賞者を無くさないための唯一の方法だ。